

第19回収蔵文書展

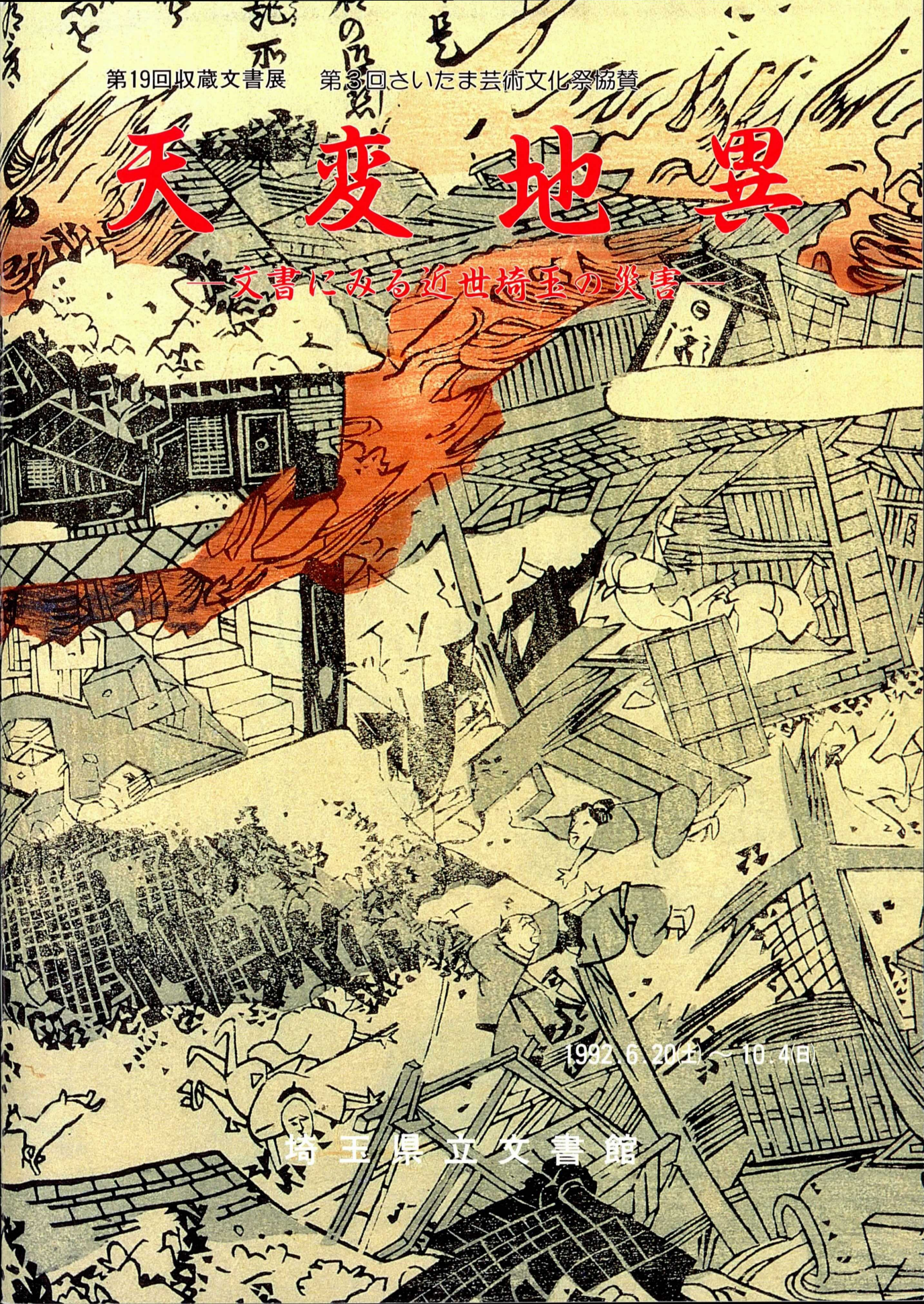
第3回さいたま芸術文化祭協賛

天変地異

—文書にみる近世埼玉の災害—

1992.6.20(土) - 10.4(日)

埼玉県立文書館



開催にあたって

自然災害すなわち天変地異は、いつの時代も人々にとって脅威の存在でした。その脅威は、記憶の新しいところでは、島原雲仙普賢岳の噴火に見るように高度に文明の発達した今日でも依然として変わることはありません。

江戸時代の本県域でも、実に様々な天変地異がおこっています。特に県内全域において頻発したのが水害で、寛保2年(1742)の大水をはじめとして、各地に大きな被害をもたらしました。また、天明3年(1783)の浅間山噴火は県北地域に大きな被害を与えたほか、堆積した火山灰が川床を上げたため、利根川流域に洪水をもたらす要因となりました。また、浅間山噴火以降の天明年間(1781~1789)、および天保4~7年(1833~1836)にかけては、天候不順が続いたことから飢饉となり、各地で打ち壊しも発生したほか、安政2年(1855)には、江戸大地震が発生、県南・東部を中心に被害が出るとともに、幕末民衆の不安をかき立てました。

本展示は、「浅間山焼」、「飢饉と干魃」、「大水」、「安政大地震」の4コーナーで構成いたしました。「天災は忘れたころにやってくる」という諺(ことわざ)がありますが、過去の災害記録を通して、当時の天変地異の実態とそれに対処した私達祖先の足跡を理解していただくとともに、本展示が今後の防災普及の一助となれば幸いに存じます。

最後に本収蔵文書展を開催するにあたりまして、これら貴重な文書を提供していただきました寄贈・寄託者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成4年6月

埼玉県立文書館長

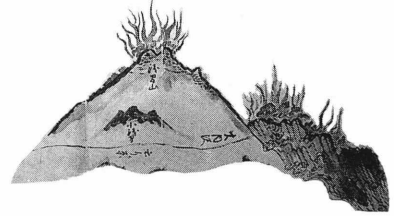
表紙写真／安政見聞誌(小室家2743)

近世埼玉の災害年表 (ゴシックは、本展関係部分)

年号	西暦	事項 (出展)
天正19 元和3	1591 1617	10. 浅間山大噴火、県北に降灰(『家忠日記』) 4. 暴風雨のため、栗橋の渡、熊谷石上寺流失(『台徳院実紀』)
寛永8	1631	3. 浅間山噴火、武蔵に降灰(『寒松日記』)
14	1637	8. 大風雨で利根川・荒川大洪水(『大猷院実紀』)
19	1642	5. 諸国飢饉、米価高騰(『大猷院実紀』)
慶安2	1649	5. 川越地方大雹降り、被害甚大(『武江年表』)
承応3	1654	11. 風害強く、川越地方で死傷者あり(『嚴有院実紀』)
延宝2	1674	8. 大風雨、利根川など氾濫(『武江年表』)
元禄14	1701	7. 荒川洪水で津田新田(大里村)の堤防決壊(『熊谷市史』)
宝永4	1707	11. 富士山噴火により降灰(『武江年表』)
享保8	1723	9. 大風雨で、利根川・荒川洪水(『熊谷市史』)
16	1731	8. ~9. 関東地方大風雨、各地で洪水(『武江年表』)
17	1732	4. ~5. 関東一円凶作、米価高騰、疫病流行(『武江年表』)
寛保2	1742	8. 関東諸国大洪水、利根川・荒川など氾濫、荒川通常水位より約60尺上がる(『武江年表』) 奥貫友山(川越市)、私財をもって40ヶ所にわたり窮民救済(『徳育資料』)
宝暦2	1752	8. 忍藩秩父領で増徴反対一揆(『秩父市誌』)
7	1757	4. ~5. 関東大洪水、利根川・権現堂川決壊(『武江年表』)
12	1762	9. 田安領(飯能市)で増徴反対一揆(『明大刑事博物館文書』)
明和元	1764	12. 伝馬騒動(『伝馬騒動記』)
3	1766	7. 関東洪水、神流川の堤防決壊(『武江年表』)
9	1772	8. 大風雨、権現堂川堤防決壊(『旧県史六』)
安永9	1780	6. 大雨、利根川・荒川などで堤防決壊(『武江年表』)
天明3	1783	7. 6月末より浅間山噴火、7月最大、秩父郡に4~5寸、県南で1寸程度の降灰をみる(『武江年表』) 10. 一橋領(日高町)の百姓、検見反対の強訴(『堀口家文書』) 12. 秩父小鹿野飢饉打ち壊し(『新編埼玉県史』11) この年、吉田市右衛門、百姓へ金穀を提供する(吉田家文書)
4	1784	6. 幸手宿の名主らの窮民救助を賞して、正福寺境内に義賑窮餓之碑が建てられる(『同碑』) 諸国大飢饉、米価高騰、疫病流行(『武江年表』)
6	1786	7. 大雨が続き、利根川堤防決壊、栗橋・岩槻洪水(『武江年表』)
寛政元	1789	7. 吉田市右衛門、利根川改修費として500両献金する(吉田家文書)
享和2	1802	7. 諸国洪水、権現堂川堤防決壊、二郷半領・松伏領水損(『旧県史六』)
文化14	1817	5. ~7. 武蔵諸国旱魃(『武江年表』)
文政4	1821	この年、春から夏にかけて大早魃、宮前村(現滑川町)の百姓が雨乞いのため碑を建立(『伊古乃速御魂比売神社碑銘』)
7	1824	8. 関東大風雨、荒川筋出水(『武江年表』)
天保4	1833	8. 幸手宿の米穀屋に打ち壊しがおこる(文書館収蔵文書) 吉田市右衛門、救荒のため以後5年間に5000両献金(吉田家文書)
7	1836	7. 4月頃より雨多く飢饉続く、岩槻町で米価高騰による打ち壊しが起こる(『飢饉断聞書類集』)
10	1839	10. 養負騒動おこる(根岸家文書)
弘化3	1846	6. 長雨で利根川出水、二郷半領の堤が切れる 7. 神流川氾濫で河道が変わり、毘沙土村(神川町)の一部が群馬県へ(『旧県史六』)
安政2	1855	10. 江戸近辺大地震発生
6	1859	6. 関東大風雨、各地で洪水発生
慶応2	1866	6. 米価高騰により武州一揆おこる(松本家文書)
4	1868	この年各地で一揆が発生する

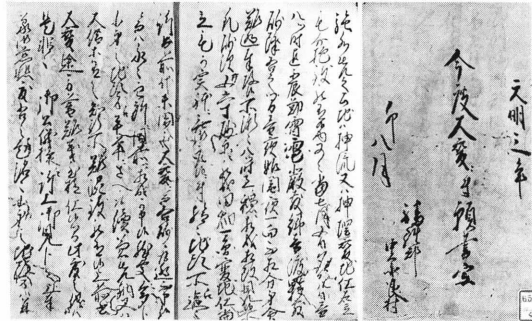
浅間山焼

天明3年(1783)4月8日に始まった「天明の浅間山噴火」は、7月6・7・8日の三日間、大爆発を起こした。本県でも、降灰が大雨のように降り続き、県北部では日中でも灯火をともし、外出時には提灯を持つほどであった。その降灰状況は、県北の本庄宿で9~12cmにも達した。また噴出物は泥流となって吾妻川より本流の利根川に流れ込み、被災地の人馬・家具もろとも一気に下流まで押し下った。利根川の川床は、この堆積した降灰によって通常より3m近くも高くなり、榛沢郡内の村々で洪水を招くようになったほか、高所まで吹きあげられた噴煙は天候不順の一因となり、前年からの天明飢饉に拍車をかけることとなった。



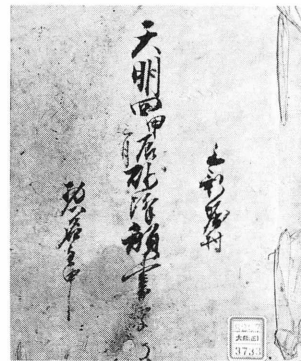
信州浅間山焼亡之麓絵図(野中家)

泥流が吾妻川から利根川へ流れ下った様子を描く。



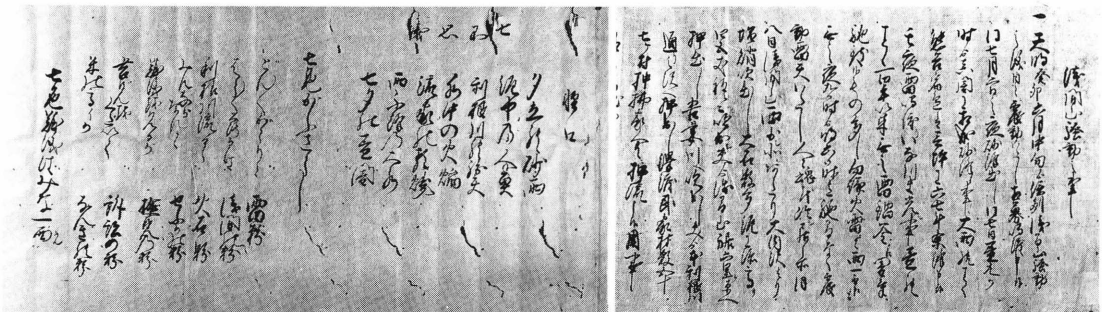
今度大変二付願書写(野中家481)

7月5日夕から8日昼八つ時迄の噴火の状況を克明に記している。



砂降願書写(大熊(正)家3733)

浅間山の降灰により、田畑は多大な被害を受けたため、各地で本文書のような砂降見分願が出された。



浅間山騒動之事(久保家2175)

文末の軽口「夕立の砂雨…」以下の七不思議は、泥流に押し流された人馬・家屋の悲惨な状況を物語っている。

飢饉と干魃

近世の三大飢饉といわれる享保・天明・天保の飢饉のうち、本県域で被害が甚大だったのは天明・天保の両飢饉である。

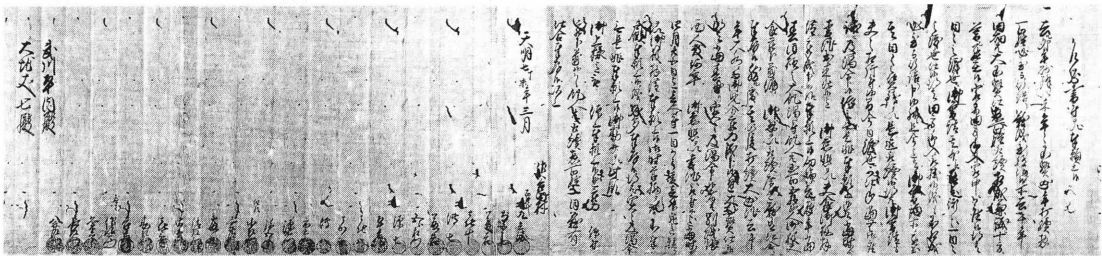
天明の飢饉では、同3年(1783)の浅間山噴火と翌年の天候不順、そして同6年(1786)の浅間山噴火に起因する利根川々床上昇による大洪水によって県内各地でも飢人が急増した。これに伴い一橋領内(現日高町)では、検見反対の強訴も発生した。

天保の飢饉は、同3年~7年(1832~1836)にかけての天候不順が原因で起こったが何よりも米価の上昇が飢えた人々にこたえた。その結果、幸手宿をはじめ米屋などを襲う打壊しも県内各地で頻繁に起こった。飢饉の救恤対策としては、社倉のような幕府指導型の他に吉田市右衛門のような有力名主の義援によるところも大きかった。また、文政年間(1818~1830)の干魃の際には、水不足から各地で用水の利権争いが発生したほか「雨乞組合」を結成して、榛名山や大山神社などに代参する村々もみられた。



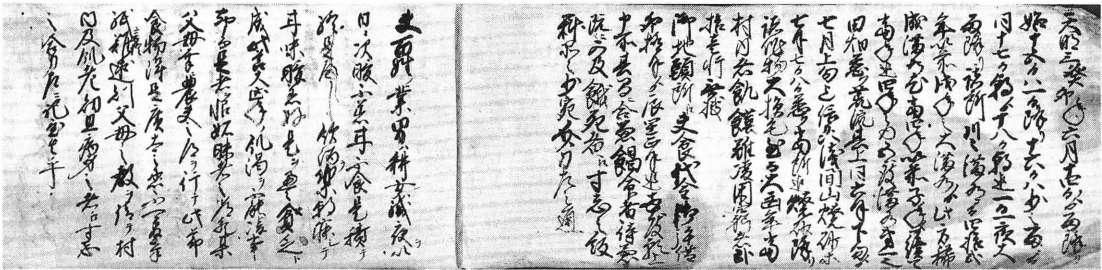
除蝗録より「蝗逐の図」
(田口(栄)家2009)

〔天明の飢饉〕



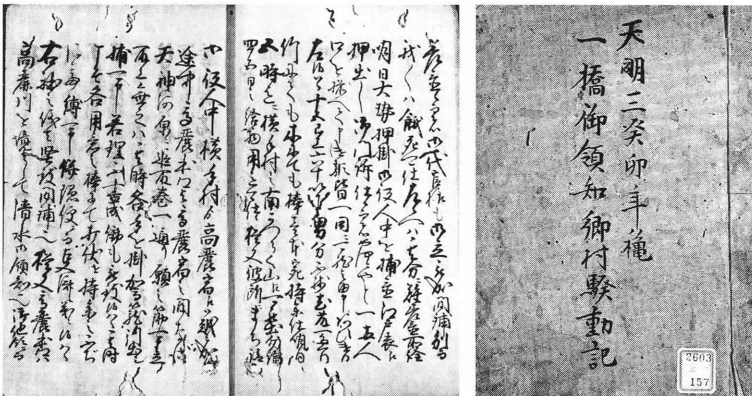
乍恐書付ヲ以奉願上候(飢饉二付) (久保家文書2236)

天明3年7月の浅間山噴火前後から、天明7年3月までの飢饉の経過を記している。



飢饉村内老幼へ合力覚 (平山家480)

飢饉で最初の犠牲者となるのが体力のない老人と子供であり、弱者救済は、村の使命でもあった。



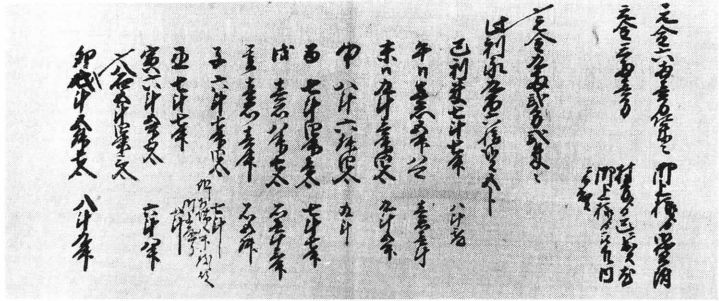
一橋御領知郷村騒動記
(堀口家157)

天明3年10月、一橋領(現日高町)の百姓が作柄不順にもかかわらず領主が強硬した検見に対する反対の強訴を起こした。

〔文政の干魃〕

年々社倉米并利金其外諸控帳
(林家6049)

備荒貯蓄のための社倉制度は、享保飢饉以降、全国に普及し、寛政改革以後は幕府によって急速に整備されていった。



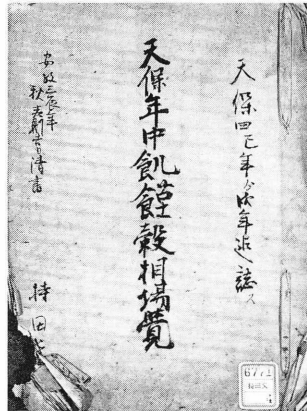
乍恐以書付御訴訟奉申上候
(用水出入二付)
(平山(小)家1140)

干魃は、農作物に甚大な被害を与えただけでなく、他村との用水利権争いの要因となった。

〔天保の飢饉〕

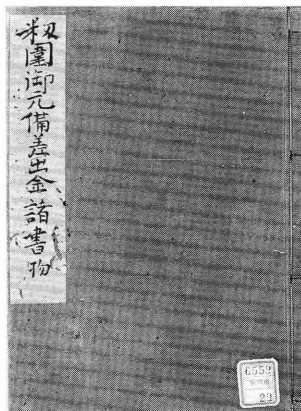
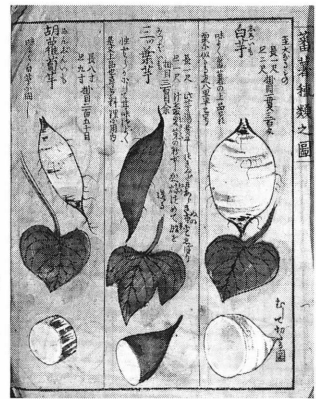
天保年中飢饉穀相場覚
(持田(文)家4)

天保飢饉の特徴として米価の異常な高騰があげられる。



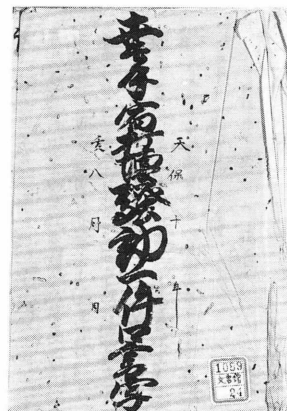
蕃著解
(篠崎家2194)

飢饉に際しては、主食に代わるサツマイモ等の救荒植物が多く食されることとなったほか、それらを紹介する救荒書も数多く出版された。



榎園御元備差出金
諸書物
(吉田(市)家29)

天保4年の飢饉に際し、下奈良村名主、吉田市右衛門は、1万両を献金、窮民救済に大いに貢献した。

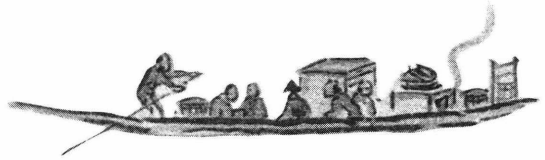


幸手宿打壊騒動一件
口書写
(文書館24)

天保4年9月、米価高騰に苦しむ幸手宿内の住民が宿内とその周辺の米穀商等を次々と打ちこわした。

大 水

県域に被害をもたらした洪水としては、寛保2年(1742)、弘化3年(1846)、安政6年(1859)のものが、その規模・被害とも大きかったことが知られている。特に寛保の洪水の被害は甚大で、その復旧作業を諸藩が行う御手伝普請が幕府より命じられている点に特徴がある。また、弘化の洪水では、神流川の氾濫で河道が変わり、賀美郡毘沙土村(現上里町)の一部が上野国に編入されるという事態も起こっている。安政の洪水は、安政2年(1855)10月の江戸大地震、同5年(1858)のコレラ病の蔓延と続いた幕末の災害地獄にとどめを刺すものとなった。

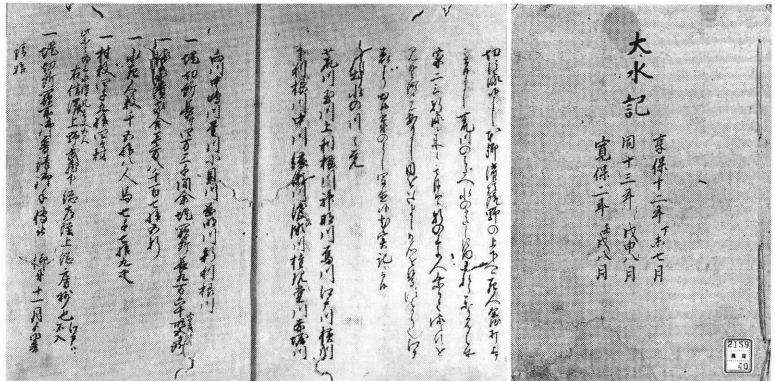


「出水図」より船上で生活する人々 (林家蔵)

〔寛保の洪水〕

大水記 (奥貫家40)

享保12・13年、寛保2年の洪水記録。寛保2年の被害状況は、「流家潰家1万8,175軒、水死人数1,058人」などとなっており、大規模な水害であったことがうかがえる。

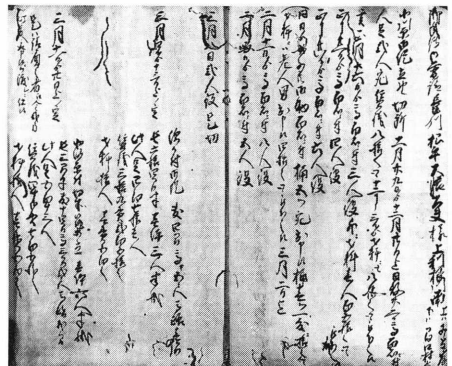


寛保二壬戌年八月出水二付御救并聞書帳 (相沢家288)

越ヶ谷・粕壁・杉戸・幸手・栗橋の溺死者数が記載されている。罹災者の存命率は約1割程度であったことが知れる。

八月二日大出水二付諸事書留覚帳 (松岡家638)

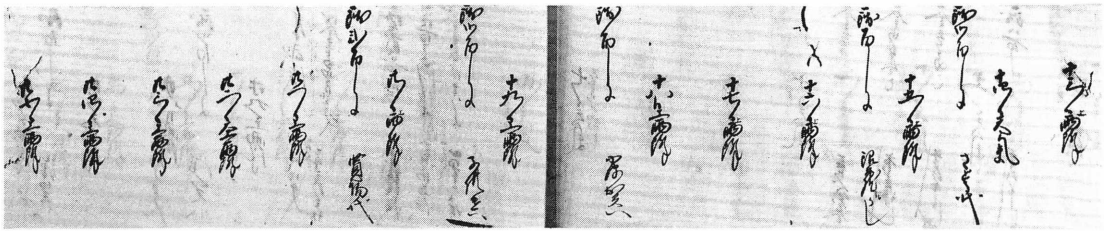
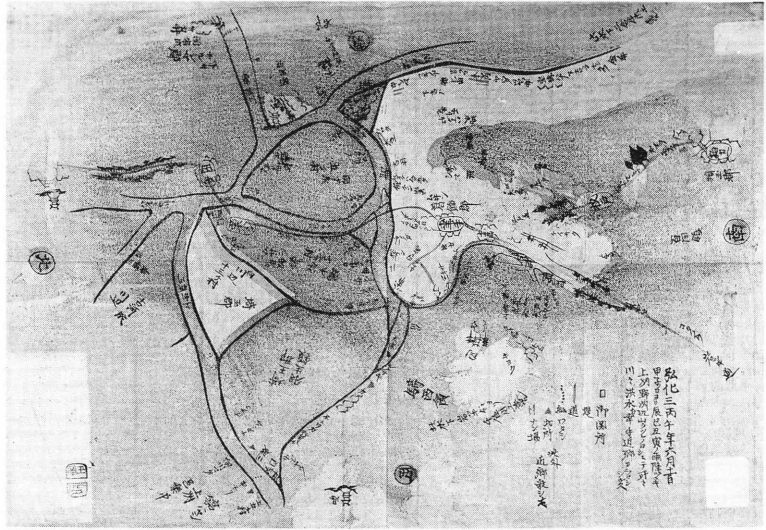
寛保2年の洪水の際に、幕府は諸河川の欠壊箇所の復旧等に西国筋の諸大名を御手伝普請として命じ、現地に派遣した。本県域でも、利根川・荒川筋の復旧に、長州・備前・熊本などの諸藩があつた。



〔弘化の洪水〕

幸手郷河川氾濫絵図
(中島家258)

木版多色刷の災害かわら版の一種である。利根川が決壊すると埼玉・葛飾両郡を押し流れ、一気に南下する様子がわかる。わずかに被害を免がれているのは、幸手附近と江戸川堤沿いの下総台地であることがうかがえる。

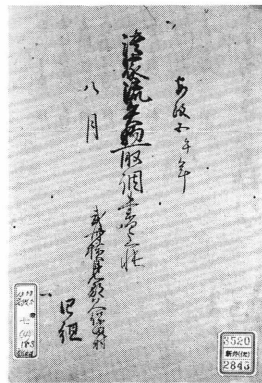


萬日記留帳 (小島(栄)家239) 弘化3年の6月～7月にかけて20日以上も雨が降り続いたことがわかる。

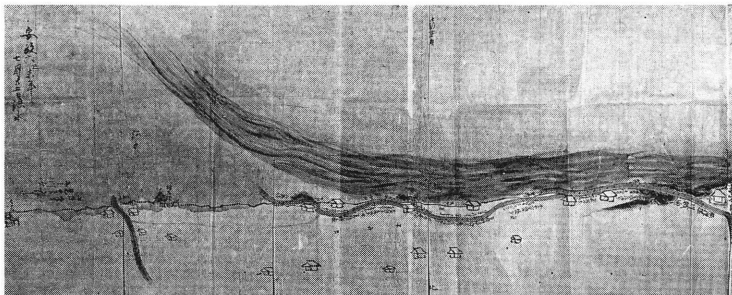
〔安政の洪水〕

潰家流出物取調書上帳
(新井(光)家2843)

洪水によって流失した農具や生活物資の被害調査も行われた。



↑下知書(其村方出水二付)
(持田(英)家542)



←荒川絵図
(持田(英)家883)

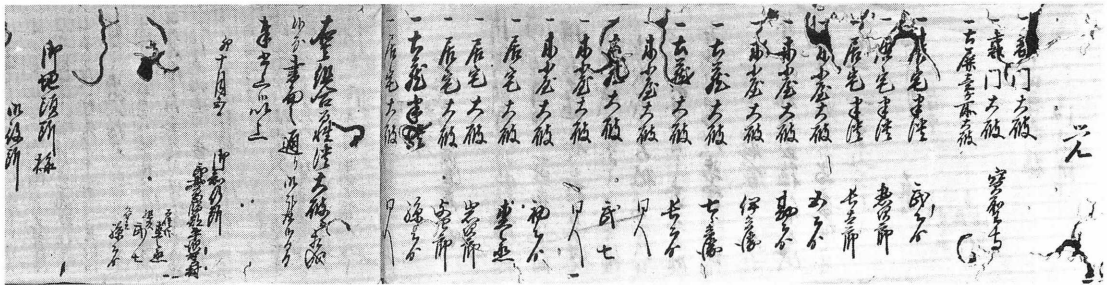
洪水に際して、その被害状況絵図の提出を求めた下知書と、それに伴い作成されたと思われる絵図である。

安政大地震

安政2年(1855)10月2日、夜四つ時(10時ごろ)、世にいう「安政の大地震」が発生した。安政大地震は直下型地震で、その被害は震源地である江戸で倒壊家屋1万4千数百戸、推定死者7千~1万人におよんだほか、地震後の火災により約14町(1.5km)四方が焼け野原となった。県内では、県東部から南部にかけて被害が見られたが、こと幸手領内では地割れや家屋の倒壊が著しく、死者もあったほどで、県内の最も大きな被災地域であったことがうかがえる。なお、安政大地震の際には江戸を中心に被災状況を伝える媒体として「かわら版」が数多く出版された。その内容は江戸の被災状況を詳述したものだけでなく、地震を起こす根源とされた鯰を描いたものも多かった。鯰はこの時期に幕末民衆の社会不安と混迷の中から、次第に世直しの立役者と化していった。



地震絵之写より
(武笠(寛)家37)



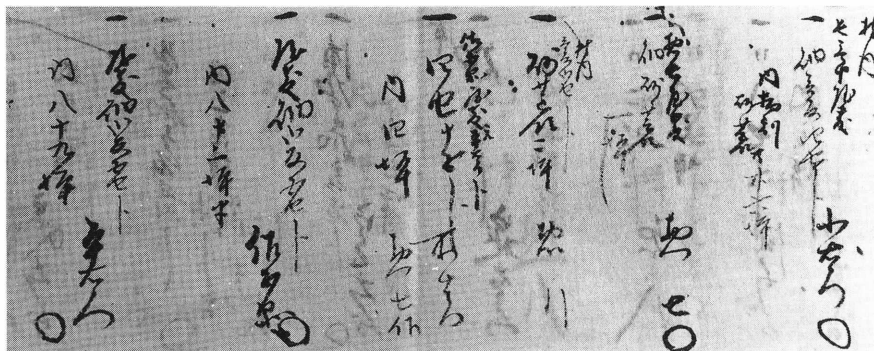
大地震二付御地頭所様江書上帳 (船川家436)

県内では、幸手領内の被害が大きく、利根川堤の震崩もあったほか、本文書にみるように建物の損壊が著しく、被害者も多かった。



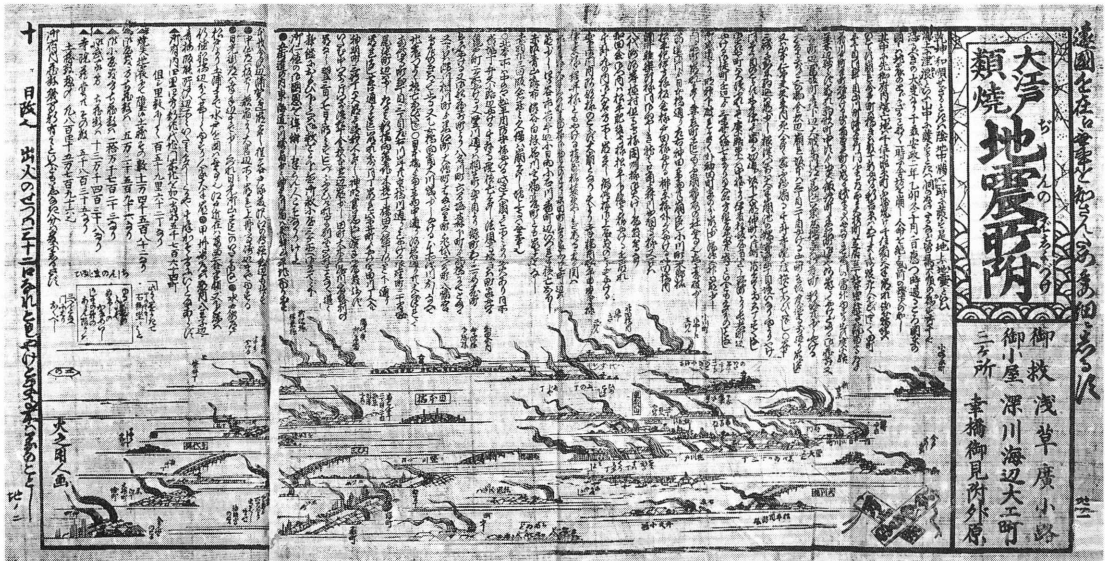
震災風災二付諸職人手間代取極帳
(銚子口区有133)

安政大地震によって倒壊した家屋の修復にかかる需要から、大工・屋根葺等の職人の手間賃が増額傾向にあったため、これを取り締る動きも見られた。



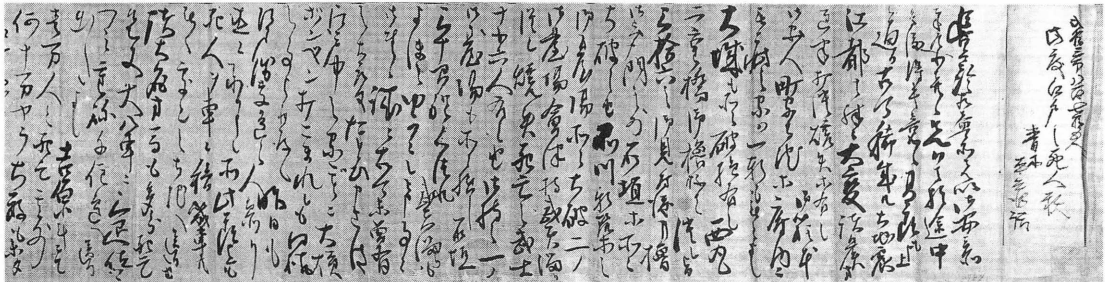
大地震二付畑方砂荒反別取調帳
(大熊(正)家3746)

県南部から東部にかけては、地震の際に大地が割れ、砂が吹き出す「液化現象(クイックサンド)」が各地で見られ、田畑作物に多大な被害を与えた。



大江戸類焼地震所附（小室家4807）

安政江戸地震後に、40近くも刷られたという地震かわらばんの一つ。幕府の救済施設である「御救小屋」もみえる。また、「遠国近在江無事を知さんため委細ニしるす」というかわらばん製作目的の一因もうかがえる。



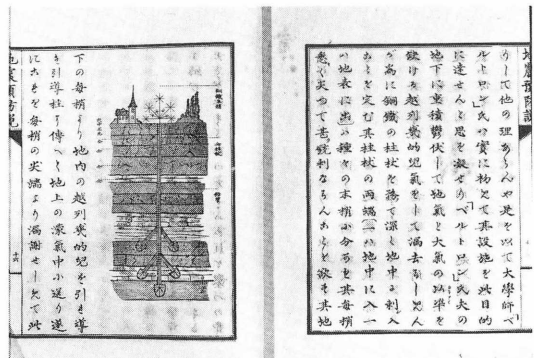
書翰(安政ノ大地震ニよる江戸ノ様子)（林家8984）

沼田一斉が、赤尾村（現坂戸市）名主、林信海に宛てた書翰で、地震の被災状況を剋明に報告している。文面から、江戸城も所々破損した様子がうかがえる。



地震けん
（小室家 錦3-5）

世間に恐れられるものたえとして存在した「地震・雷・火事・親父」の4人が藤八拳を行っている様子を描いている。



地震預防説（小室家2329）

安政江戸地震の際には、地震そのものを科学的にとらえ、何故地震が起きるのか分析した蘭学書も翻訳され、流布された。本書は、地震の原因を電氣的現象とみて、避雷針との類似から避雷孔なるものを提案している。

展 示 文 書 目 録

年 号 (西 曆)	文 書 名	文 書 番 号
浅間山焼		
天明 3 (1783)	今度大変ニ付願書写	熊谷市野中家 481
天明 3 (1783)	水腐御見分入用割帳	吉見町新井(尙)家 1814
天明 3 (1783)	浅間山騒動之事	熊谷市久保家 2175
天明 3 (1783)	乍恐書付を以御注進申上候 (砂降りニ付)	熊谷市久保家 2333
天明 3 (1783)	御用諸事願書写	庄和町土生津家 648
天明 3 (1783)	組頭を以奉申上候 (砂降田畑損毛ニ付)	大宮市大塚家 41
天明 3 (1783)	水野出羽守殿被成御渡候御書付写	坂戸市林家 8536
天明 4 (1784)	砂降願書写	菖蒲町大熊(正)家 3733
天明 6 (1786)	乍恐以書付奉申上候 (利根川床高二付)	大和町小林(茂)家 2980
天明 6 (1786)	備前堀記録 壺	越谷市備前渠 3
天明 6 (1786)	信州浅間山焼亡之龜絵図	熊谷市野中家
天明 6 (1786)	天明浅間山焼聞書	熊谷市飯島(徳)氏収集 715
飢饉と干魃		
〔天明飢饉〕		
天明 3 (1783)	卯飢饉村内老幼へ合力覚	毛呂山町平山家 480
天明 3 (1783)	御用留覚帳	坂戸市林家 812
天明 3 (1783)	差上申一札之事 (検見願ニ付)	坂戸市林家 3053
天明 3 (1783)	一札之事 (世間騒動ニ付徒党不参加ニ付)	坂戸市林家 689
天明 3 (1783)	一橋御領知郷村騒動記	日高町堀口家 157
天明 4 (1784)	往還諸御用留	越谷市福井家 15
天明 6 (1786)	午御年貢米永年用捨引之事	大里町根岸家 1835
天明 7 (1787)	乍恐書付ヲ以奉願上候 (飢饉ニ付)	熊谷市久保家 2236
天明 7 (1787)	入置申一札之事 (妻子餓死養生方)	大宮市大島(圭)家 269
〔文政早魃〕		
文政 4 (1821)	乍恐以書付御訴訟奉申上候 (用水出入ニ付)	江南町平山(小)家 1140
文政 4 (1821)	干魃ニ付作柄届	浦和市会田家 4487
文政 4 (1821)	年々社倉米并利金其外諸控帳	坂戸市林家 6049
文政 6 (1823)	雨乞組合村高覚	桶川市加藤家 974
文政 6 (1823)	文政六未年五月早魃ニ付日記	江南町平山(小)家 136
文政 7 (1824)	乍恐書付ヲ以奉願上候 (天候不順作柄悪シキニ付)	江南町飯島家 834
文政 7 (1824)	文政水難行並戯言弁辞	川島町鈴木(庸)家 179
文政 8 (1825)	農論 (ききん用心農論)	熊谷市野中家 2890
文政 9 (1826)	除蝗録	鷲宮町田口(栄)家 2009
文政11 (1828)	農民懲戒篇 全	杉戸町藤城家 1360
〔天保飢饉〕		
天保 4 (1833)	窮民合力米議定之事	春日部市中島家 597
天保 4 (1833)	糶困御元備差出金諸書物	熊谷市吉田(市)家 29
天保 4 (1833)	飢民を救ふに至て仕方	熊谷市松岡家 4067
天保 4 (1833)	巳年凶作ニ付御米請印帳	毛呂山町平山家 180
天保 4 (1833)	幸手宿打壊騒動御裁許御請書写シ	杉戸町藤城家 12
天保 6 (1835)	(百姓共奢りなく家中儉約御下知)	吉見町新井(尙)家 4971
天保 7 (1836)	乍恐以書付御届ケ奉申上候 (旱害田畑不作ニ付)	大宮市大島(圭)家 468
天保 7 (1836)	飢饉愁訴之事	都幾川村森田家 5611
天保 7 (1836)	乍恐以書付奉愁訴候 (久喜町打ちこわしニ付)	鷲宮町相沢家 1326
天保 7 (1836)	日本持丸長者鑑	熊谷市野中家
天保 8 (1837)	困窮者江施方帳	飯島(徳)氏収集 286
天保 8 (1837)	凶年飢饉千代保苦連	熊谷市野中家 3126
天保 8 (1837)	飢饉録	都幾川村小室家 19
天保 8 (1837)	御調ニ付極貧民書上帳	吉田町新井家 2730
〔天保 8 (1837)〕	乍恐以書付奉願上候 (村々困窮ニ付御救願)	吉見町新井(尙)家 373
天保10 (1839)	幸手宿打壊騒動一件口書写	文書館 24
天保10 (1839)	天保年中飢饉穀物相場覚	花園町持田(文)家 4
	宝曆・天明・天保米価高値市中町触写	熊谷市中村(宏)家 5
	蕃書解	蓮田市篠崎家 2194

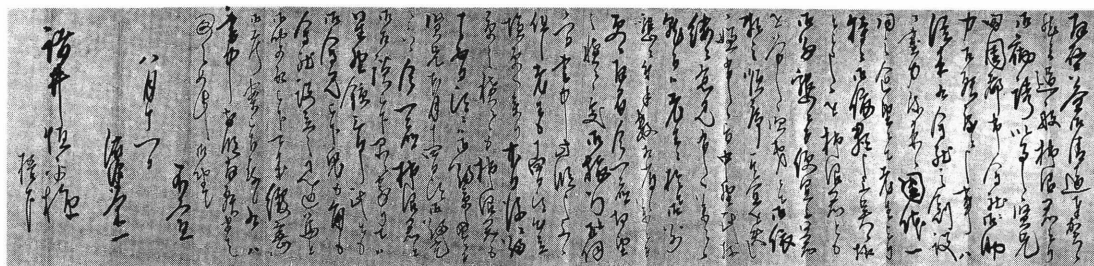
年号(西暦)	文 書 名	文 書 番 号
大 水		
[寛保の洪水]		
寛保2 (1742)	八月二日出水ニ付諸事書留覚帳	熊谷市 松岡家 638
寛保2 (1742)	覚(当秋出水之節村方水丈)	熊谷市 松岡家 4188
寛保2 (1742)	当八月中大水ニ付御拜金被仰付小割帳	熊谷市 松岡家 1000
寛保2 (1742)	水所飢人夫食拝借小前證文	熊谷市 野中家 391
寛保2 (1742)	(飢人御改扶食代金御貸し渡被成下候御書付)	熊谷市 野中家 6388
寛保2 (1742)	惣下書之覚	吉見町 新井(优)家 140
寛保2 (1742)	寛保二壬戌年八月出水ニ付御救並聞書帳	鷺宮町 相沢家 288
	大水記	川越市 奥貫家 40
[弘化の洪水]		
弘化3 (1846)	乍恐以書付奉願上候(水冠ニ相成候ニ付)	大宮市 坂東家 211
弘化3 (1846)	幸手郷河川氾濫絵図	春日部市 中島家 258
弘化3 (1846)	利根川流路説明図	加須市 川島家 1179
弘化3 (1846)	水難困窮之者江御救米御届書	大利根町 小林(茂)家 809
弘化3 (1846)	萬日記留帳	庄和町 小島(栄)家 239
弘化3 (1846)	(丙午大水見舞覚)	加須市 川島家 1121
弘化4 (1847)	差上申御諸事之事(水損切所堤敷)	熊谷市 久保家 1816
[安政の洪水]		
安政5 (1858)	潰家流失物取調書上帳	吉見町 新井(优)家 2843
安政6 (1859)	当未年水損荒地巨細書上	吉田町 新井家 477
安政6 (1859)	大出水ニ付村内困窮人江極月被下置候取調帳写	菫蒲町 大熊(正)家 2753
安政6 (1859)	当度出水ニ付日記	春日部市 田中(一)家 590
安政6 (1859)	洪水床上り家々へ被下令割渡帳	坂戸市 林家 778
安政6 (1859)	上下分出水床上り家々見廻り記帳	坂戸市 林家 777
安政6 (1859)	下知書(其村方出水ニ付)	花園町 持田(英)家 542
安政6 (1859)	荒川絵図	花園町 持田(英)家 883
明治	(荒川・市ノ川通破堤被害歴年表)	川島町 鈴木(庸)家 987
安政大地震		
安政2 (1855)	当卯年十月二日夜大地震ニ付畑方砂荒反別取調帳	菫蒲町 大熊(正)家 3746
安政2 (1855)	乍恐以書付奉願上候(大地震ニ付)	菫蒲町 大熊(正)家 3781
安政2 (1855)	大地震ニ付御見分御出役入用上下割合帳	菫蒲町 大熊(正)家 46
安政2 (1855)	大地震手伝人足控帳	大利根町 小林(茂)家 1117
安政2 (1855)	御達書附写	大宮市 西角井家 1235
安政2 (1855)	乍恐以書付奉願上候(稀成大地震ニ付)	幸手市 船川家 2150
安政2 (1855)	大地震ニ付御地頭所様江書上帳	幸手市 船川家 436
安政2 (1855)	申渡(地震ニ付金子拝借)	幸手市 船川家 1325
安政2 (1855)	地震絵之写	浦和市 武笠(寛)家 37
安政2 (1855)	書翰(安政大地震ニよる江戸の様子)	坂戸市 林家 8984
安政2 (1855)	大地震ニ付諸職人請書	本庄市 諸井(興)家 2
安政2 (1855)	廻状(去ル十月二日地震ニ付)	幸手市 幸手図書館 240
安政2 (1855)	地震類焼場所明細書之写	加須市 川島家 610
安政2 (1855)	恵比寿天申訳之記	庄和町 増田家 1288
安政2 (1855)	大地震出火図絵	蓮田市 篠崎家 4321
安政2 (1855)	大江戸類焼地震所附	都幾川村 小室家 4807
安政2 (1855)	関東江戸大地震並大火方角場所附	都幾川村 小室家 4808
安政2 (1855)	(御救所場所)	都幾川村 小室家 4806
安政3 (1856)	地震預防説	都幾川村 小室家 2329
安政3 (1856)	安政見聞誌(上・中・下)	都幾川村 小室家 2743
安政3 (1856)	震災風災ニ付諸職人手間代取極帳	春日部市 銚子口区有 133
安政3 (1856)	御地頭所大地震ニ付御土蔵御修覆御用金取立帳	幸手市 船川家 424
	大江戸地震後教	都幾川村 小室家 3368
	地震けん	都幾川村 小室家 錦3-5
	新吉原大地震大火之図	都幾川村 小室家 錦7-1

※期間中、一部展示替えを行います。

—— 新収蔵文書コーナー —— 展 示 目 録

番号	年 号 (西暦)	文 書 名	文 書 群 名
1	享保13 (1728)	日光山へ御社参之控	飯 田 (敏) 家 文 書
2	明治20 (1887)	理事評議録	日本煉瓦株式会社関係文書
3	明治21 (1888)	日 誌	日本煉瓦株式会社関係文書
4	明治32 (1899)	参考書類	日本煉瓦株式会社関係文書
5	大正 5 (1916)	渋沢栄一書状 (田園都市会社助力願ニ付)	日本煉瓦株式会社関係文書
6		渋沢栄一書状 (埼玉学生誘液会寄宿寮要義ニ付)	日本煉瓦株式会社関係文書
7	安政 6 (1859)	田宮流剣術免許皆伝巻物	横 島 氏 収 集 文 書
8	文久 1 (1861)	江戸大節用	横 島 氏 収 集 文 書
9	明治 6 (1873)	官宅判取帳	黒 田 (小) 家 文 書
10	明治 6 (1873)	官宅買物帳	黒 田 (小) 家 文 書
11		熊谷町祭礼古写真	黒 田 (小) 家 文 書
12	建久 3 (1192)	源頼朝袖判下文 (複製)	原資料 神奈川県立博物館蔵
13	天正17 (1589)	徳川家康郷村定書 (複製)	原資料 池谷一郎氏所蔵
14		赤山陣屋絵図 (複製)	原資料 中山謙二郎氏所蔵

※期間中、一部展示替えを行います。



渋沢栄一書状 (田園都市会社助力願ニ付) (日本煉瓦株式会社関係文書)

協力者 (敬称略・順不同)

大石慎三郎、小諸市役所経済部商工観光課、
浅間火山博物館、美斎津洋夫 (小諸市)、
菊水寺 (吉田町)、埼玉県立博物館、
正福寺 (幸手市)、内田太郎 (志木市)、
高橋祐治 (熊谷市)、鷲宮神社 (鷲宮町)、
竜昌寺 (加須市)、林信行 (川越市)、
久喜市教育委員会、持田久二 (皆野町)

文 書 館 利 用 案 内

- 開館時間 / 9:00～17:00
- 休 館 日 / 月曜日・国民の祝日・休日・毎月末日
年未年始 (12月27日～1月5日)
特別整理期間 (春秋10日間以内)
- 交通案内 / J R 京浜東北線・高崎線・宇都宮線
浦和駅下車徒歩12分
J R 埼京線 中浦和駅下車徒歩15分

正 誤 表

- | | |
|------------|-------------------------|
| 4頁6行目 | 現日高町→現日高市 |
| 4頁11行目 | 救恤(きゅうじゅう)→救恤(きゅうじゅつ) |
| 4頁下から4行目 | (現日高町)→(現日高市) |
| 4頁下から2行目 | 強硬→強行 |
| 5頁中段 | 蕃薯解→蕃薯解 |
| 8頁中段 | 屋根葦→屋根葺 |
| 10頁14,15行目 | 天明6年(1786)→(天明3年(1783)) |
| 10頁22行目 | 日高町→日高市 |
| 10頁24行目 | 大里町→大里村 |
| 10頁31行目 | 桶川市→伊奈町 |
| 12頁9行目 | 埼玉学生誘液会→埼玉学生誘掖会 |
| 12頁10,11行目 | 横島氏収集文書→横島氏収集文書 |